

半導体漫遊記

湯之上隆

367

以下に示す。

図1は地域別の投稿論文数の推移を示している。06年から11年ごろまでは、投稿数の首位は米国、2位は日本であった。その後、米国は緩やかに投稿数を減らしつつも首位を維持してき

それまで首位だった米国を抜き、地域別投稿数でトップに躍り出た。25年には韓国の投稿数はやや減少したもの、中国の投稿数は依然として急増している。すなわちVLSIシンポジウムにおける投稿論文数の急増は、中国による大量の論文投稿が主な要因といえる。図2は05年から25年までの地域別採択論文数の推移を示している。05年から10年ごろまでは、米国と日本

ば、早ければ26年には中国が米国や韓国を追い抜き、採択数で首位に立つ可能性が高い。それほどまでに中国の勢いはすさまじい。このように近年は韓国と中国が投稿数および採択数を大きく伸ばしており、これがVLSIシンポジウム全体の論文数の増加と採択率の低下を招いていると考えられる。ではなぜ、この両国がこれほどまでに投稿論文数を増やしているのだ

過去最多の論文数に

VLSI 中韓の爆増が背景

VLSIシンポジウムの特徴は、ハワイと京都で隔年開催されること、そして回路とデバイスの二つの分野の学会が同時に開催される点にある。

25年は投稿論文数が例年の約1.5倍にあたる921件に達し、採択論文数は過去最多の251件となった。採択率は27.2%で、採択されるのが難しい学会となった。ではなぜVLSIシンポジウムがこれほどの競争率を誇る学会になったのだろうか。その要因を

たが、日本は急速に投稿数を減らし、17年以降は50件を下回る水準で低迷している。この傾向は、日本の半導体産業における国際競争力の低下を如実に示しているといえる。

一方、日本の投稿数が減少し始めた20年以降、中国および韓国は急速に投稿数を増加させた。特に23年には中国と韓国の両国が、

が採択数の首位を争っている。11年以降は日本の採択数が急減し、18年以降は20件前後で推移している。一方、20年ごろから韓国の採択数が段階的に増加し、23年には米国に並んだ。さらに中国も20年以降採択数を急増させ、24年には欧州を抜き、米国・韓国に次ぐ第3位に浮上した。このままのペースで成長が続け

その背景には両国の制度的な事情がある。すなわち両国ではISSCC、IEDM、VLSIシンポジウムなどの権威ある国際学会への論文採択が、研究者や技術者の昇進や昇給に直結する制度が整備されているのである。国際学会における論文数は、その国や地域の研究・技術力の一端を示

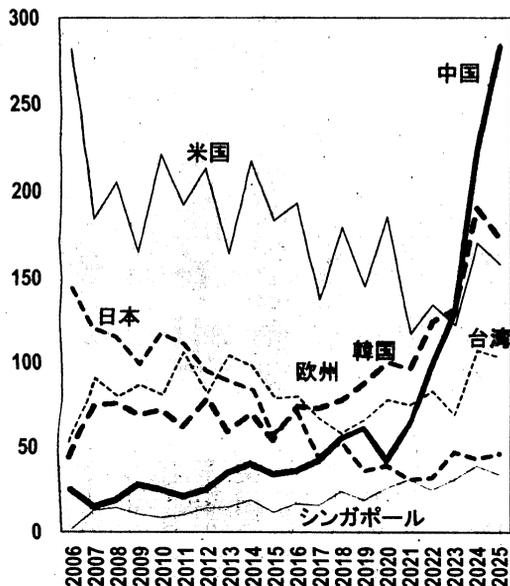


図1 VLSIシンポジウムの地域別投稿論文数

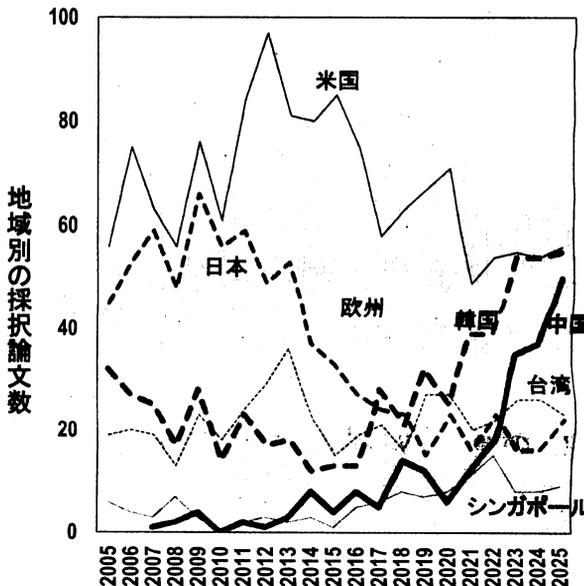


図2 VLSIシンポジウムの地域別採択論文数

出所:VLSIシンポジウムの記者会見配布資料を基に筆者作成